

平成 22年 6月 10日現在

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2006～2009

課題番号：18200016

研究課題名（和文） 情報専門職養成をめざした図書館情報学教育の再編成

研究課題名（英文） Reorganization of library and information science education aimed at training information professionals

研究代表者

根本 彰(NEMOTO AKIRA)

東京大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：90172759

研究成果の概要（和文）：

図書館情報学教育を高度化させ有能な情報専門職を育成するためには、現行の司書課程中心の教育ではなく、大学院による専門教育への移行が望まれてきた。これを実現するための手段として、本研究では、教育評価を厳密にするための図書館情報学検定試験を準備し、これが実現可能であることを示した。また、国際的状況のなかでの日本の図書館情報学の位置づけを明らかにしたり、遠隔教育の方法を探ったりといったいくつかの局面における研究を行った。

研究成果の概要（英文）：

We have developed library and information science achievement test to improve Japanese LIS profession. We are trying to introduce it to the LIS education courses at universities most of which have short-term curricula to provide librarian license called “shisho” with students. We think this is a challenge to change them as a strong assessment tool of educational performances. In addition we made clear the location of Japanese LIS education in the world settings and developed remote educational system of LIS education.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
2007年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2008年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
2009年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
年度			
総計	16,200,000	4,860,000	21,060,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：情報学・図書館情報学・人文社会情報学

キーワード：図書館情報学教育 検定試験 遠隔教育

1. 研究開始当初の背景

本研究は、科学研究費補助金基盤研究A(2003年～2005年)「情報専門職の養成に

向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究」(研究代表者上田修一慶應義塾大学教授)を継承しさらに発展させるた

めに実施した。前研究の結論は次のようにまとめられている。

- (1) 日本の図書館情報学教育は、戦後間もない時期につくられた「講習」による「司書」「司書教諭」養成の枠組みを現在も保持している。アジアの近隣諸国を含めて国際的には情報専門職を大学院修士レベルで養成する方向に移行しつつある状況と比べるとギャップは広がりつつある。
- (2) 制度的には講習という枠組みに基づいていることもあって、教授される知識・技術の標準化について大学教育カリキュラムとして十分に検討されておらず、また、専門職としての就職の機会がごく少ないこともあって、教育内容や技術レベルに競争原理が働く場がきわめて限られている。
- (3) 専門職として、従来の司書カリキュラムに加えて、情報技術の修得および利用者の情報利用行動、知識の組織化などの領域で新たなカリキュラム開発が必要である。
- (4) 図書館専門職としての就職の機会が極めて限られているにもかかわらず、司書資格取得を希望する学生や社会人の数は多く、教育マーケットとして安定していることが、これまで改革を妨げてきた。

このような認識に基づき次の内容の提言を行った。

- (1) 司書課程・司書講習で学んだことを自己確認し、それを就職に結びつけることができるようにするための「図書館情報学検定試験」を実施する。
- (2) 司書課程・司書講習のカリキュラムを情報専門職に必要なコアの部分学ぶことができるように改善する。
- (3) グローバルスタンダードとしての修士課程レベルの図書館情報学カリキュラムを開発し、学術情報、公共情報、学習情報、デジタル情報、主題別情報の各専門職を養成できるようにする。

これを継承した本研究は、前の研究の名称を踏襲して **LIPER2** と略称している。また、前研究では最後に提言（以下「**LIPER 報告2006**」と呼ぶ）を出すようなきわめて実践的なものであったが、本研究もその性格を継承している。

2. 研究の目的

本研究は、上記の提言を受けて準備段階では「図書館情報学のコア領域のカリキュラムの開発、図書館情報学検定試験の実施準備、国際的に通用する修士課程情報専門職カリキュラムの3点にわたって研究開発を行う」ことを予定していたが、優先順位を少し変更して、図書館情報学検定試験の実施準備を中心として他の課題の解決に取り組むことにした。

これは第一に、ちょうど文部科学省で図書館法およびそれに基づく施行規則の改正が日程に上ったことで、司書養成の位置づけや制度、そして、養成カリキュラムの変更が考えられたこと。第二に、検定試験の準備を行うことは図書館情報学の教授内容をふまえることになること。第三に、図書館学大学院を検討するには未だ時期尚早であること。第四に、**LIPER** で未着手だった研究分野や十分に展開されていなかった研究分野があったのでそちらにも力を入れようとしたこと。以上四つの理由による。

こうして次のような組織をつくって研究を行うことにした。全体の総括にあたるころは研究代表者が中心になって行った。

研究代表者

図書館情報学検定試験準備グループ
個別研究班

- ① 国際班
- ② 遠隔教育班
- ③ 学校図書館班
- ④ 大学図書館班
- ⑤ 情報資源組織化教育班

また、**LIPER** 時代から研究は日本図書館情報学会と密接な関係をもって進めてきた。今回の個別研究班の形成においても、同学会の個人会員から研究課題の公募を行い、何人かの研究協力者を得ることができた。

3. 研究の方法

本研究は次のような方針で実施した。大学における科目表がつくられたということは、司書養成に従事する大学での教育担当者が自らの責任でカリキュラムをつくり、学生を指導し、評価することで司書を排出することになったことを意味する。**LIPER** 提言のなかで司書養成において図書館情報学のコア領域を学び、検定試験を実施することでそれを評価するという課題実現のための外的な条

件が整ってきたということが出来る。そのために、検定試験の準備過程を最優先し、それとあわせてコア領域を探ることにした。また、それ以外は個別の研究班をつくって検討を加えることにした。LIPERの研究プロジェクトの延長として国際的なコンテキストを検討する国際班、館種別に大学図書館班と学校図書館班、LIPERでは展開できなかった研究分野として遠隔教育をとりあげ、また、より図書館情報学のなかの領域の例として情報資源組織化班を設けた。

検定試験の準備は、2007年度から2009年度まで毎年秋に準備試験を実施することにし、そのための問題作成や試験実施体制の準備を春から実施した。試験という図書館界、図書館情報学教育に関わる広範な外部フィールドを対象にしているの、公開制の研究会を開催したり、図書館大会や図書館総合展のような関係者が多く集まる場で説明する機会を積極的に利用したりした。研究代表者はこうした研究の流れを外部に説明するとともに図書館情報教育についての論文を外部に発表する役割を引き受けた。また個別研究班についてはそれぞれが連携研究者の責任者を中心に協力者を入れて計画的に検討を進め、それぞれが内外の学会、研究会で口頭発表を行い、論文を執筆した。

この間に、LIPER2の重要な成果発表の場であるとともに、日本の図書館情報学を国際的な枠組みに位置づける重要な機会として、A-LIEP2009と呼ぶ国際会議を2009年3月に開催した。A-LIEPは2006年に最初の会議がシンガポールで開催され、2007年に台北で第二回が開催され、つくばでの開催が第三回目にあたる。この一連の会議が開催される経緯は、LIPERにおいてアジア地域の図書館情報学教育の現状を把握するために、シンガポール、タイ、台湾、中国、韓国などから専門家を呼んだことにある。これをきっかけにしてアジア太平洋地域の図書館情報学教育の協力体制をどのようにつくるかをテーマとした一連の国際会議が開催されてきた。

このように、研究チームは検定試験準備を柱にして、個別研究班の研究に従事する一方でA-LIEP2009の準備を進めた。以下、検定試験準備とA-LIEPの成果について述べる。個別研究班についてはそれぞれの担当者からの報告をそのあとに掲載する。

4. 研究成果

(1) 検定試験準備

2007年に24問、2008年、2009年には50問の検定試験問題を作成して、実際に学習者に回答してもらいその結果を分析することで、検定試験の実行可能性について検討を行った。実行可能性についてはそうした内容面だけではなく財政および試験実施体制についても検討した。

	問題	実施体制	大学数	受験者数
2007年	24問	研究チーム関係大学での個別実施	10大学	549人
2008年	50問	東京、大阪、つくばでの3会場	20大学	277人
2009年	49問	東京、大阪、つくばでの4会場	25大学	302人

3回実施してみた結果であるが、次の3点になる。第一に、学修歴が長くなれば点数が高まるということであり、それにより学習の成果を評価する指標としては一定の機能を果たしていると言えるだろう。第二に、受験者の成績分布は図書館情報学を主として学んだ受験者とそうでない受験者の二つのピークにはっきりと分かれる傾向があった。これは図書館情報学の専門試験として適正であったことを示している。第三に、その違いは問題の分野別で言えば、とくに情報利用者、経営管理、情報システム、デジタル情報といった通常の司書課程で十分な教育が行われていない分野において差が大きかった。

図書館法施行規則の改正によって新たに導入されようとしている「大学における図書館に関する科目」の科目表では、これらの科目は現在よりも力が入れることになっている。このことを考慮すると、3年にわたって実施してきた準備試験は、こと内容的な側面について言えば、教育内容と試験内容の関係（レリヴァンス）について十分整合的であり、今後の教育内容の評価ツールとして意義があったということが出来る。

試験準備はそうした内容面ばかりでなく、運営面において多くのノウハウの蓄積をもたらした。この3年間の準備によって図書館情報学検定試験は本格実施の一手前まで来たということが出来る。

(2) 国際的な研究教育協力

国際班を中心にして、図書館情報学の国際的な研究教育についての検討を継続して行った。そのなかでは、とくにアジア太平洋地域との連携が大きなテーマになった。そこで、東南アジア地域やオーストラリアへの聞き取り調査を行ったり、IFLA（国際図書館連盟）のミラノ大会(2009)のラウンドテーブルディスカッションに参加して議論に加わったりなどの活動を行っている。

また、研究プロジェクトの一環として、2009年3月6日から8日まで、筑波大学を会場として国際会議 A-LIEP2009（正式名称：Asia-Pacific Conference on Library & Information Education and Practice）を開催した。会議は、2009年3月9日から11日まで、筑波大学図書館情報メディア研究科、筑波大学知的コミュニティ基盤センター、日本図書館情報学会の3者が共同主催者となり、アジア太平洋地域だけでなく、北アメリカ、ヨーロッパ、アフリカを含めて30カ国から186名の参加があった。このうち外国からの参加は66名であった。

この会議では、図書館情報学教育者によるシンポジウム、長尾真国立国会図書館長による基調講演、50件を超える個人発表があった。日本のようにテクノロジーで世界をリードする国の図書館情報学教育がどのようなものなのか知りたいという各国の出席者の期待に、一定程度答えることができたという点で成功であったが、日本の状況は国際的な議論からかなりのギャップがあることを改めて認識させる機会ともなった。

(3) その他の成果

研究班としては、ほかに

- ① 遠隔教育班
- ② 学校図書館班
- ③ 大学図書館班
- ④ 情報資源組織化教育班

の4つがあってそれぞれの研究目標に基づいて検討を進めた。その成果は個別に以下の発表論文としてまとめられている。また、それらをまとめて報告書として刊行した。

情報専門職養成をめざした図書館情報学教育の再編成(研究成果報告書) / 研究代表者 根本彰. -- 根本彰, 2010. -- (科学研究

費補助金(基盤研究A)研究 成果報告書 ; 平成18年~21年度)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 15 件)

- ① 根本彰 今後の図書館員養成と検定試験構想 『図書館雑誌』 Vol.103, No. 4, 2009. pp.229-232.
- ② 根本彰 図書館情報学検定試験の実施計画について 『図書館雑誌』 Vol.103, No. 9, 2009. pp.640-64
- ③ 永田治樹ほか. 大学図書館のコンピテンシーについて. (筑波大学附属図書館研究開発室年次報告 平成20年度) 2009, p1-12.
- ④ 河西由美子, 宮原志津子, 三輪眞木子 オーストラリア高等教育機関における「図書館情報専門職」養成の実態に関するインタビュー調査. 『論叢・玉川大学教育学部紀要』 2009, pp.83-107.
- ⑤ 平久江祐司. 日本の小学校図書館担当者の職務の現状と意識に関する研究：学習情報センターにおける図書館担当者の職務構成の在り方. *Library and Information Science*. 2009, no.59, pp.1-39.
- ⑥ 根本彰 「大学における科目」と図書館情報学検定試験 『日本図書館協会教育部会報』 86号 2008年12月 pp13-16
- ⑦ 根本彰 図書館情報専門職のあり方とその養成をめぐる 『日本社会教育学会紀要』 No.44, 2008, pp.137-139.
- ⑧ Makiko Miwa, Yumiko Kasai, Shizuko Miyahara. Toward Mutual Accreditation and Credit Exchange among LIS Programs in the Asia-Pacific Region. *Journal of Librarianship and Information Studies*, Vol. 65, 2008, pp.1-13.
- ⑨ 村上泰子, 北克一. 司書科目『資料組織演習』環境の現代化とメタデータ入力環境構築の試作, 『資料組織化研究』 54, 2008. pp.27-36.
- ⑩ 根本彰 40年の空隙を埋める --1968年省令改正と今-- 『日本図書館協会図書館学教育部会会報』 81号 2007年11月 pp.11-13.

⑭根本彰 図書館員養成とポストLIPER報告『図書館雑誌』Vol.101, No.11, 2007, pp.741-743.

⑮永田治樹、森祥子ほか. 大学区図書館職員の専門性と人材育成のあり方に関する研究(筑波大学附属図書館研究開発室年次報告平成18・19年度報告), 2008, pp. 33-50.

⑯根本彰 LIPER提言についての高山正也氏の批判に答える『図書館雑誌』Vol.101, No.6, 2007, pp.388-391

⑰根本彰 「司書講習等の改善に関することについて(報告)」(1967)の解説『日本図書館情報学会誌』Vol.53, No.3, 2007. pp.172-182.

⑱文部省社会教育局 司書講習等の改善に関することについて(報告)1967年12月(翻刻責任 根本彰 2007年)『日本図書館情報学会誌』Vol.53, No.3, 2007. pp.172-182.

[学会発表](計 15件)

① Mitsuhiro Oda, Sachiko Nakajima, Makoto Setouchi, A Study on the requirements for launching e-learning programmes to LIS education in Japan: Challenge of DEPLIS. Asia-Pacific Conference on Library & Information Education & Practice, March 9 2009.

② Akira Nemoto, Galapagos or an isolated model of LIS educational development?: A consideration on Japanese LIS education in the international setting, Asian and Pacific Region Library and Information Education Conference, Tsukuba, Japan, March 9 2009. 12p.

③ 河西由美子, 宮原志津子, 三輪眞木子 アジア太平洋地域の図書館情報専門職教育におけるオーストラリアのプレゼンス: オーストラリア3大学へのインタビュー調査報告 2009年日本図書館情報学会春季研究集会 2009年5月23日 駿河台大学

④ 宮原志津子, 三輪眞木子, 河西由美子 東南アジアのLIS教育と卒業後の労働環境の現状: マレーシア・シンガポール・フィリピンにおけるインタビュー調査報告2009年日本図書館情報学会春季研究集会 2009年5月23日 駿河台大学

⑤ Mitsuhiro ODA. Professional Development and Training for Librarians in e-learning Environment 2008年11月14日, 韓国文献情報処理研究会(於: 延世大

学, ソウル, 韓国, 英語による発表)

⑥ 瀬戸口誠, 中島幸子, 小田光宏 図書館員養成におけるeラーニング型遠隔教育プログラム開発の課題: 「資料組織演習」における実験に基づいて 第56回日本図書館情報学会研究大会(於: 帝塚山大学) 2008年11月16日

⑦ 宮原志津子, 三輪眞木子 LIS教育の質的保証に関する国際動向 第56回日本図書館情報学会研究大会 2008年11月15日 帝塚山大学

⑧ 三輪眞木子, 河西由美子, 宮原志津子 LIS専門職教育の国際的な同等性と互換性に関する議論 第57回日本図書館情報学会研究大会 2008年10月31日-11月1日 明治大学

⑨ 小田光宏, 中島幸子, 瀬戸口誠, 遠隔教育による図書館員養成の課題: 英国の事例に基づく考察. 2008年6月28日, 平成20年度西日本図書館学会春季研究発表会(於: 九州女子大学)

⑩ 今井福司, 平久江祐司, 安藤友張. 1930年代~40年代のアメリカ南部における学校図書館専門職養成: LIPER2学校図書館班調査報告. 2008年日本図書館情報学会春季研究集会発表要綱. 2008.3.29 pp.63-66.

⑪ 根本彰, 上田修一, 小田光宏, 北克一, 三輪眞木子, 永田治樹, 平久江祐司, 吉田右子, LIPER2図書館情報学検定試験(2007年準備版)の結果分析 2008年日本図書館情報学会春季研究集会発表要綱 2008.3.29 pp.111-114

⑫ 中島幸子, 瀬戸口誠, 小田光宏 米国の図書館員養成における遠隔教育とその支援体制 『日本教育工学会研究報告集』2008年3月1日, pp.85-90.

⑬ Makiko Miwa, Yumiko Kasai, Shizuko Miyahara. Toward Mutual Accreditation and Credit Exchange among LIS Programs in the Asia-Pacific Region. The ASIA Pacific Conference on Library & Information Education & Practice 2007 (2nd A-LIEP 2007), Shih-Hsin University, November 23-24, 2007, Taipei, Taiwan.

⑭ 辻慶太・三浦太郎・根本彰 図書館職員の職に対する意識調査: 正規/非正規の差を中心に 第55回日本図書館情報学会研究大会要綱 2007.10.13 pp5-8.

⑮ 平久江祐司, 安藤友張, 今井福司. 先進11市における小学校図書館担当者の職務の現状と意識: LIPER2学校図書館班調査報告. 第55回日本図書館情報学会研究大会発表要

網. 2007.10.13 p.93-96.

〔図書〕(計2件)

①根本彰, 上田修一, 小田光宏, 永田治樹
『図書館情報学検定試験問題集』日本図書館協会 2010. 163p.

②根本彰 図書館情報専門職養成と大学教育: 研究と現場の関係を踏まえながら 日本図書館情報学会研究委員会編『図書館情報専門職のあり方とその養成』勉誠出版, 2006. (シリーズ・図書館情報学のフロンティア No.6) pp.1-20..

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jslis/liper2>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

根本 彰 (NEMOTO AKIRA)

東京大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号: 90172759

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

上田 修一 (UEDA SHUICHI)

慶應義塾大学・文学部・教授

研究者番号: 50134218

小田 光宏 (ODA MITSUHIRO)

青山学院大学・教育人間科学部・教授

研究者番号: 00185604

北 克一 (KITA KATSUICGI)

大阪市立大学・大学院創造都市研究・教授

研究者番号: 00275231

竹内 比呂也 (TAKEUCHI HHIROYA)

千葉大学・文学部・教授

研究者番号: 10290149

平久江 祐司 (HIRAKUE YUJI)

筑波大学・大学院図書館情報メディア研究科・教授

研究者番号: 20302432

永田 治樹 (NAGATA HARUKI)

筑波大学・名誉教授

研究者番号: 40124200

三輪 眞木子 (MIWA MAKIKO)

放送大学・ICT活用・遠隔教育センター・教授

研究者番号: 90333541

吉田 右子 (YOSHISDA YUKO)

筑波大学・大学院図書館情報メディア研究科・准教授

研究者番号: 30292569